

発生予察情報

特殊報第2号

平成12年12月13日
秋田県病虫害防除所

マメハモグリバエの初確認について

平成12年9月、施設キクにおいて、防除を行っても被害が拡大するハモグリバエ類がいるとの報告があった。そこで幼虫および成虫を採取し、横浜植物防疫所調査研究部に同定を依頼したところ、マメハモグリバエであることが確認された。本種は多くの植物に寄生し被害を与える。

1. 病虫害名 マメハモグリバエ *Liriomyza torifolii* (Burgess)

2. 作物 キク

3. 形態および生態

成虫は体長2mm程度の黄色のハエで、葉の中に産卵する。ふ化した幼虫は葉肉を食害し、その食痕が白い線状となつて残り、古くなると褐色に変色する。幼虫の色は黄色から黄褐色である。3齢を經過した老熟幼虫は葉から脱出し、地上に落下して蛹になる。蛹は褐色、俵状で、長さ2mm程度である。

発育適温は25～30℃である。10℃以下で発育が停止し、氷点下にならない限り生存するが、本県では野外越冬はできないと考えられる。35℃以上では卵や幼虫はある程度発育できるが、蛹は高温障害を受け死亡する。

マメハモグリバエによく似た種類（ナスハモグリバエ）がいて、肉眼での同定は困難である。正確な同定には顕微鏡での観察が必要であり、主に幼虫の後気門瘤の数で判定する（写真－1）。

4. 被害の状況

幼虫の食痕、成虫の摂取痕や産卵痕で外観を損ね著しく商品価値を低下させる。多発すると光合成が阻害され、生育遅延や収量低下の原因となる。

5. 主な寄主植物

キク科：キク、ガーベラ、しゅんぎく、レタス

ナス科：トマト、なす、ピーマン

セリ科：セルリー、にんじん

マメ科：大豆、えんどう

ウリ科：きゅうり、メロン、スイカ

ユリ科：ねぎ

アカザ科：ほうれんそう

リンドウ科：トルコギキョウ

アブラナ科：はくさい、ダイコン、チンゲンサイ 等

6. 防除対策

1) 苗を購入する場合は寄生の有無を十分に確認し、苗での持ち込みがないよう気をつける。

2) 被害作物等はほ場周辺には決して放置せず、土中深く埋めるか焼却する。

3) 圃場周辺の雑草（特にキク科）にも寄生するので、除草を徹底する。

4) キクの防除薬剤は、アセフェート水和剤・粒剤、イソキサチオン乳剤、フルフェノクスロン乳剤、ニテンピラム粒剤、シロマジン水和剤が有効である。

5) 本種は薬剤抵抗性が発達していることから注意が必要である。

7. 参考資料



写真－1 マメハモグリバエの幼虫
後気門の先端部に瘤状のなだらかな突起が3個
あればマメハモグリバエ。7～12個の瘤をもち、
切れ込みが深い櫛状であればナスハモグリバエ。



写真－2 幼虫の食痕

【問い合わせ先】

秋田県病害虫防除所 018-860-3420

秋田県農業試験場 018-881-3326

掲載HP <http://www.pref.akita.jp/nosaneng/bojo/index.html>